

令和6年度 校内研究実施計画書

1 研究主題

主体的に学びに向かう子の育成

～つながりを意識した国語科と算数科の授業を通して～

教科：国語科・算数科

2 主題設定の理由

(1) 学校目標から

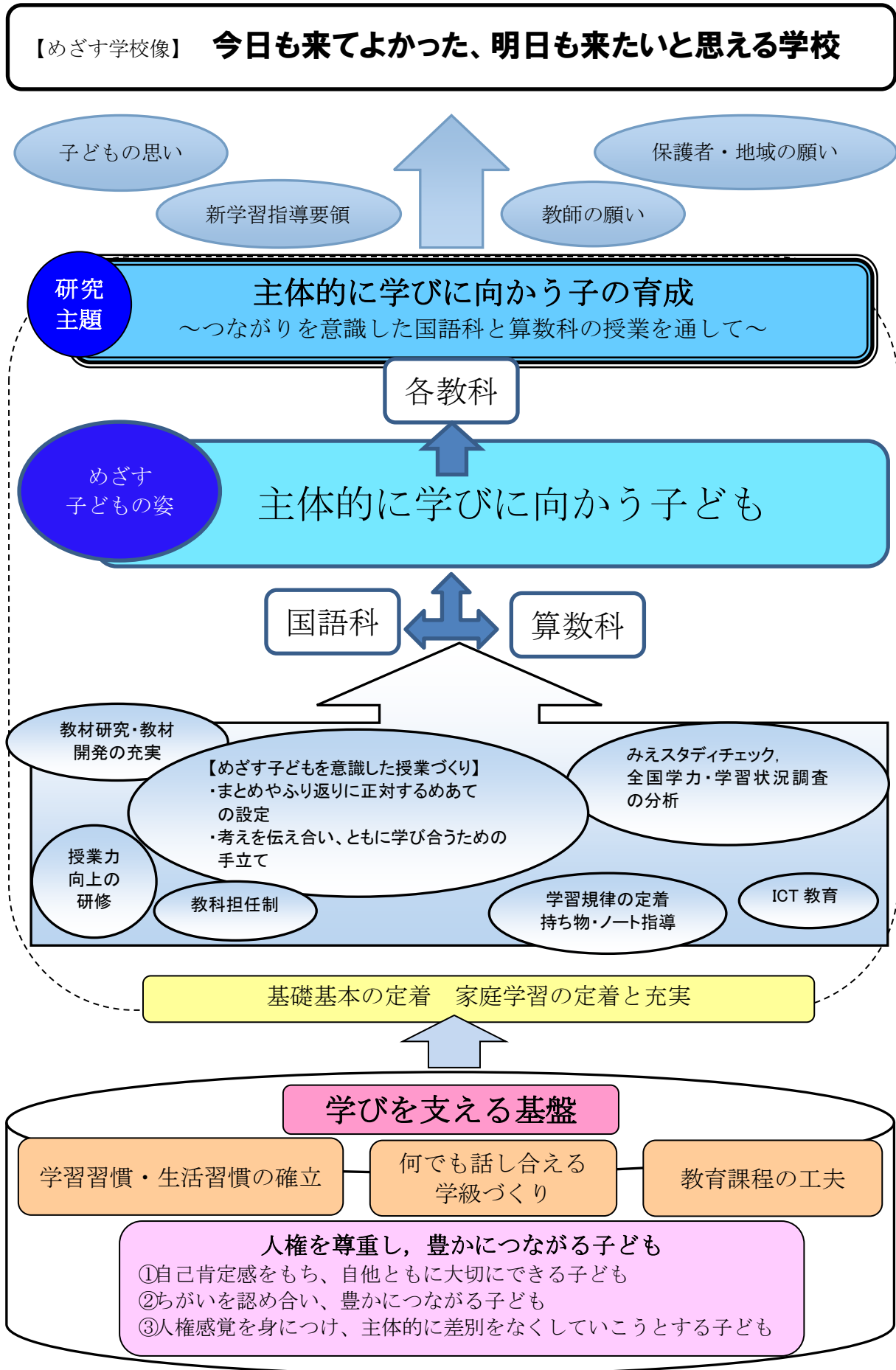
本校は「今日も来てよかった、明日も来たいと思える学校」を学校教育目標に掲げ教職員全体で教育活動に取り組んでいる。それに伴い、研修部では、自ら課題解決に向けて探求し、わかることの「楽しさ」、仲間との学びを「楽しい」、明日も学びたいと思える授業づくりをめざしていくために、今年度も昨年度に引き続き「主体的に学びに向かう子の育成」を研修主題に掲げ、職員全員で研究に取り組んでいく。

(2) 昨年度の研究から

一昨年度、子どもたちの中には、教師の指示を待って動き出したり、自分が一目見て難しいと判断した課題には、あきらめたり人任せにしたりするなど、最後までとことんやり抜こうとする姿勢が乏しいという課題が見られた。そこで、昨年度は教師が課題を子どもたちに提示し、授業を展開していくような教師主導の授業ではなく、子どもたち自らが「知りたい、学びたい、深めたい」とする主体的に学びを進められるような授業をつくることを意識して取り組みを進めてきた。その結果、目の前の課題に対し粘り強く取り組もうとしたりする姿勢や、自分の考えを何とかもとうとする場面も見られるようになった。

一方で、書いて表現したり、説明したり、発表したりするなどの、自分で考えたり、行動したりする力が弱いという課題も見られた。また、他の子の意見を聞いて、自分の意見を深めることができていないという実態もある。それは、子どもたちが自分の意見を整理する方法を身につけていない、間違っても良い雰囲気や学級に根づいていないことなどが考えられる。さらに、子どもが課題解決したいと思う内容になっているのか、発問が子どもの意欲につながるものになっているのか、子どもの思い・疑問等から出発した授業になっているのか、学習課題が話し合っ高めあいたいと思う内容になっているのかなど、教師の授業づくりにも課題が残る。

そのため、児童が自分の考えをもって、より主体的に活動するためにはどのような手立てがあるのか、学び合うなかで「できるようになった」「一緒に解決できた」「自分にはない考えが知れた」という楽しさや達成感を味わえるようにするための授業づくりを全職員で行っていく。



3 研究主題・副題のとらえ方

(1) 研修主題「主体的に学びに向かう子の育成」について

「主体的」とは

- ①身の回りのことや社会に関心を持ち、意欲的に活動すること。
- ②自ら課題を持ち、筋道を立てて考え、課題解決に臨むこと。
- ③学んだことや身に付けたことをもとに次の課題や他の教科に生かすこと。

以上のことを踏まえ、主体的に学びに向かう子どもの姿を以下のように設定する。

	主体的な姿
子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを書いたり、説明・発表したり、行動・表現することができる。 ・他の子の意見を聴いて、自分の考えを深めることができる。

(2) 研究副題「つながりを意識した国語科・算数科の授業を通して」について

「つながり」とは

- ①1時間、1単元の授業のつながり

子どものふり返り・発言を次の授業のめあてや学習展開に生かす。

- ①なぜ、その「めあて」なのか。
- ②なぜ、その発問になるのか。
- ③なぜ、その導入を取り入れたのか。
- ④なぜ、その学習展開にするのか。
- ⑤なぜ、そのふり返りを期待するのか。



- ・目の前の子どもの姿を想定している
- ・子どもにつけなければならない力
- 2つの視点をもって答えられるように

単元の見通し、1時間の見通しをもった授業づくりを行う。

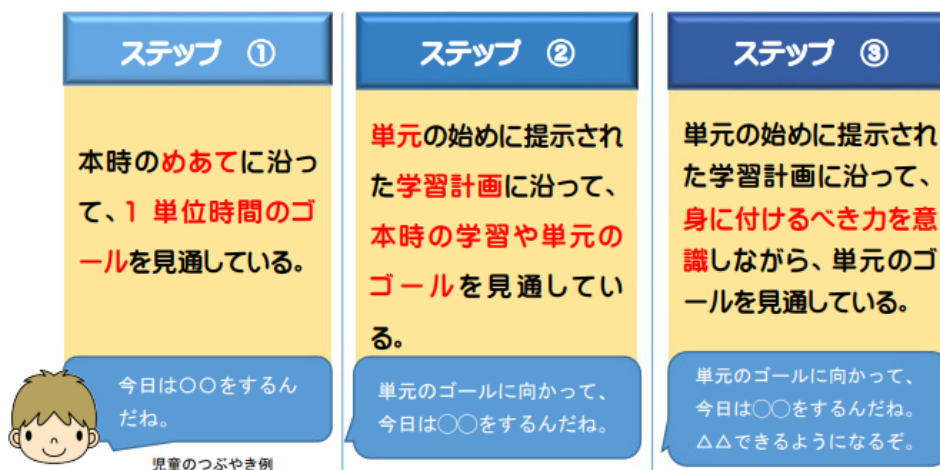
「見通す」とは、目の前の目標や課題達成のために、どのような学習過程が必要か、児童自身が理解していることを指す。見通しをもった学習に取り組むことで、授業に対する目的や必要性を実感でき、粘り強く学びに向かうことができると考える。

見通しをもたせるために大切なこと

- ・1時間ごとに課題やめあてを明確にする。
- ・単元を通した課題やめあてを子どもの思いや発言を加味しながら立てる。
- ・単元を通した課題やめあての解決に向けた学習計画を作成する。

見通しをもった授業ステップと子どもの変化(引用元)

http://www.sagaed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h29/01_syo_chu_kakukyuka/01_syou_kokugo/document/s/2_2_tedate_hari.pdf



②子どもどうしのつながり

意見のつながりをもたせるために大切なこと

- ・ペア学習（学び合い、意見交換）を行う。
- ・グループ学習（ワークショップ、対話、討論）を行う。
- ・全体交流（ディスカッション、ディベート）を行う。
- ・発問（問い返し、繰り返し、補足、教師の出場）を工夫する。
- ・ICT機器を活用する。

4 めざす子ども像

考えたことを書いたり、説明・発表したり、行動・表現することができる。
他の子の意見をきいて、自分の考えを深めることができる。



算数科の「かく・話す・聴く」の学年部目標

	かく	話す	聴く
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・図、式、言葉や文でかく。 ・ていねいにわかりやすくかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手を見て、最後まで文の形で話す。 ・順序を表す言葉を使って話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の目を見て、うなずきながら最後まで聴く。 ・友だちの考えをわかろうとしながら聴く。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・図、式、言葉や文、表などを使ってかく。 ・自分の考えを順序立ててかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手の反応を確かめながら話す。 ・理由づけながら、順序よく話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えを理解しようと話し手を見て反応しながら聴く。 ・自分の考えと比べながら聴く。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じて、図、式、言葉や文、表・グラフなどを効果的に使ってかく。 ・自分の考えを簡潔に、筋道立ててかく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き手の反応を確かめながら話す。 ・根拠を明らかにしながら、算数用語を使って筋道立てて話す。 ・発表に必要な資料を活用しながら説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考えを理解しようと話し手を見て反応しながら聴く。 ・自分や友だちの意見を比べて、共通点や相違点を考えながら聴く。

国語科の「書く・話す聴く・読む」の学年部目標

	書く	話す・聴く	読む
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語をつなげて書く。 ・ていねいにわかりやすく書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す順序を考えて話す。 ・話し手の発表を聴き、感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的な順序や事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉える。 ・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語や文と文をつなげて書く。 ・自分の考えを順序立てて簡単な構想を立てて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理由や事例などを挙げながら話す。 ・話し手が話したいことをとらえ、自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に着目しながら、考えと理由と事例との関係などを、叙述をもとに捉える。

			<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述をもとに捉える。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・語と語や文と文つなげて、内容のまとまりがわかるように書く。 ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実、感想、意見を区別するなど、話の構成を考えながら話す。 ・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとにおさえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。 ・登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉える。

「考えを表現する」とは、子どもは様々な方法で自分の考えを表現しており、発言すること、ノート等へ記述すること、音読や身振り手振りなどを使って表現するなどである。

自分の考えを他者に伝える際には、相手意識をもち順序立てて、自分の考えを表現することが必要である。

「自分の考えを表現する」ために大切にしたいこと

- ・ICTの積極的な活用。(実物投影機、オクリンクなど)
ICT機器の活用を通して、個別最適な学びと協働的な学びを進める。
【個別学習】 自らの疑問について深く調べる、自分にあった進捗で学習を進めるため、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築できる。
(例) インターネットを用いた情報収集、写真や動画による記録、スライドやドキュメントを用いて自分の考えをまとめるなど
- 【協働学習】 子どもどうしによる意見交換、発表などお互いを高め合う学びを通して、友だちと協力しながら課題解決を進めることができる。
(例) グループや学級全体での発表・話し合い、グループで分担・協働しながら資料の作成、学校の壁を越えた交流学习など
- ・表現する術が身につける。(言葉、文、式、グラフ、ICT)
- ・自分と対話する(振り返りでの自分の考えの変容、新たな問いの発見)
- ・自分の考えを伝えるときの手助けとなる「話型」。(学年に応じて作成)
- ・子どもたちの実態に応じた学習形態の工夫。(ペア・グループ学習など)
- ・相手意識をもって伝える。

5 研究内容

(1) まとめやふり返りに正対するめあての設定

児童が授業の中で主体的に活動するには、導入時のめあての提示にこだわる必要がある。授業の中で何を学ぶのか、何を解決すれば良いのか、一人ひとりが具体的な見通しをもつために、まとめやふり返りに正対するめあての設定について研究を進めていく。

めあて・・・その授業における、ねらいや目標。それらを達成させるために、子どもが目的意識をもつようなものを“めあて”とする。めあてを掲げることによって、「何のために今日の学習があるのか」、「今日は、何ができたらいいのか」を理解して主体的に学習を進めることができる。

まとめ・・・めあてに対する答え。教師が授業の中で教えるべき事項や覚えるべき事項。めあてとまとめについては、基本的に正対性がとれるものとする。

ふり返り・・・授業後、めあてに立ち戻って自己評価することや今日の学びで得たことを発表したりかいたりすることを行うこと。「めあてや学習課題が解決できたか」、「なぜ解決したのか」、「なぜ未解決なのか」「授業の中でうまれた疑問・問い」をふり返ることで、1時間で得た学び、次時に学びたいことなどを確認することができる。

そこで、次のことを念頭に入れながら、それぞれの授業・単元を計画していく。

授業のねらいを明確にしためあてを設定・提示するとともに、まとめやふり返りとの正対性を図ることに力を入れていく。「めあての提示」→「学習活動」→「まとめ」→「ふり返り」という一連の学習の流れを基本とし、めあてに掲げた内容に正対したふり返りを行うことを大切にする。そこで、授業の流れを考える際、授業のゴール（ふり返り）を明確にしてから、めあてを設定するように努めていく。

(2) 考えを伝え合い、ともに学び合うための手立て

①ペア・グループ学習

ペアやグループにおける学習活動を通して、児童どうしがそれぞれの考えを確認、共有、整理、比較、分類する。

【ペア学習】 個々の思考の確認・共有する場合に活用。

【グループ学習】 思考を広げたり、深めたりする場面に活用。

ペアやグループ学習を行う前後で、児童の姿やその考えに変容（思考の揺らぎ・深まり）が見られるよう、有効な場面を模索していく。

また、ペア学習やグループ学習をなぜ取り入れたのか、入れた効果があったのか、ペア学習やグループ学習ではそれぞれのペアやグループで出た考えをどのように把握し、全体の流れに戻していくのか、「教師の授業技術としてペアやグループ学習を明確に位置づけることが、児童の学力向上につながる」という意識をもって授業づくりを行っていく。

6 研究方法

(1) 全体研究授業

【1学期】

- ・国語、算数ともに、各学期で重点単元を決める。

「重点単元」

- ①個人だけでなく、学年で検討し、一単元の見直しをもって教材研究を行う。
- ②児童がノートに書いたり、説明・発表したりできる手立てを考える。

- ・自主授業公開を行い、授業を見合う。
- ・授業公開後、ミニ事後検討を行う。

【2学期】

- ・教員それぞれが引き続き「重点単元」で取り組みを進める。
- ・授業公開による全体研修会を行う。
- ・授業公開後、事後検討会を行う。

【3学期】

- ・教員それぞれが引き続き「重点単元」で取り組みを進める。
- ・授業公開による全体研修会を行う。
- ・「研修のふり返し」を行う。

【研究授業にかかわって】

- ・自習及び支援体制を整えたり、基本的に全職員が授業を参観する。
- ・事前検討会は、学年部を中心に行う。
- ・事後検討会は、KJ法で授業のふり返しを行う。
- ・全体研究授業を実施しない学年は、学年部別研究授業を実施する。
(例：1年生が算数科で全体研を行った場合、2年生は国語科で学年部研を行う。)

(2) 習熟度別少人数指導

- ・4、5、6年生の算数科で、習熟度少人数指導を行う。
- ・各単元のテストの結果及び児童のアンケート結果からコースを選択する。
- ・それぞれのコースの児童の実態に合わせて授業づくりを行っていく。

(3) 授業力向上に向けた取り組み

- ・自主授業公開を行い、授業を見合う。
- ・参観同日に、ミニ事後検討を行う。
- ・参観した教員は、研修長及び指導教諭、授業者へ参観シートを提出する。

(4) 基礎・基本の定着に向けて

- ・家庭学習の定着と充実
- ・学習規律の徹底やノート指導の統一

7 研究計画

月 日	内容
4月10日(水)	全体研・学年部研 授業者決定〆切
4月10日(木)	学力強化週間(6年学調取り組み強化週間)
4月18日(木)	全国学力調査テスト 国語・算数(6年)
4月19日(金)	児童質問紙調査(6年)
4月25日(木)	校内研修① 今年度の研修の方向性を共有する。
5月7日(火)	学力強化週間(4、5年生みえスタ取り組み強化週間)
5月15日(水)	みえスタ 国語・算数・理科 (※理科は5年生のみ)
5月29日(水)	学調経年変化調査(6年)
6月中旬	校内研修③ 山本公開授業
7月下旬	校内研修④
10月23日(水)	校内研修⑤ 全体公開授業①
11月中旬	校内研修⑥
1月29日(水)	校内研修⑦ 全体公開授業②
2月下旬	校内研修⑧ 研修の反省等